

インターバンクの声（2015年3月10日）

先週6日に発表された予想以上に強かった米雇用統計の影響は、昨日の東京市場やニューヨーク市場まで残り続けたようで、時折利益確定と思われるようなドル売りが入ってくるもののドルの堅調さは維持されたままだ。さすがに雇用統計発表数時間前の1.10ドル台前半から200ポイントも下落して11年半ぶりの安値に下落したユーロは、さらに売り続けるにはギリシャと欧州連合（EU）、欧州中央銀行（ECB）、国際通貨基金（IMF）の3機関で構成する「トロイカ」との支援協議が決裂するようなレベルの材料が必要だが、むしろ現実の合意に備えて売り自重のステージになっているのかも知れない。ドル円相場も、市場では121円台の上値が重いとの解説が目立つが、暫く117円前後から120円台半ばまでのレンジが長かったことを思えば、とにかく再び昨年12月上旬の121円85銭を上回る挑戦をする段階まで戻って来ているのだ。目先、ユーロの下落やドル円の上昇が当然続くとの見方が大勢だが、素直にその方向にポジションを取る人が少ないように感じるのが妙に気になるところだ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。